群馬パース大学　平成 23 年度　FD 活動報告書

平成 23 年度は、次の FD 活動に取り組んだ。

１．FD 研修会

FD に関する認識共有・合意形成、本学の FD 活動の成熟発展につながる知識情報の獲得等を目的に、FD 研修会を開催している。23 年度は以下の通り実施した。専任教員は原則として全員出席、客員・非常勤教員は任意の出席とした。参加者には参加証を発行し、研修参加を証するとともに、研修内容について事後アンケートへの回答を求めた。研修会の成果は、回答の集計結果を含め、FD 部会で分析協議し、これに基づいて、次項、FD ワークショップが企画された。

平成 23 年度 FD 研修会

日　時　平成 23 年 8 月 31 日（水）13:00-15:30
会　場　群馬パース大学 8 階 PAZ ホール
演　題　基礎学力の向上に役立つ教育力について
講　師　八木輝雄先生（河合教育文化研究所）
趣　旨　長年、予備校で小論文を通じた能力の開発・伸長にあたってこられた経験から、大学教育における基礎学力向上のための取組について示唆を得る
出席者　専任教員 34 名（出席率 80.4%）、兼任教員 4 名、事務職員 3 名
（他業務で欠席した教員は後日録画を視聴した）
研修後アンケートの結果
「参考になった」という回答が、回答者の 76.6%を占めた

２．FD ワークショップ

FD 研修会の成果を本学の教育活動に踏襲するため、グループワークから成る FD ワークショップを開催している。23 年度は、以下の通り実施した。グループワークの材料とするため、開催に先立ち、課題に関する事前アンケートを実施した。教育経験年数別に 5 グループに分かれての作業ののち、各グループの成果を報告し合った。成果報告資料を FD 部会が集約し、全学に還元した。参加者には参加証を発行し、研修参加を証するとともに、研修内容について事後アンケートへの回答を求めた。

平成 23 年度 FD ワークショップ

日　時　平成 24 年 2 月 15 日（水）16:00-18:00
演　題　教育の成果をあげる
趣　旨　今年度 FD 研修会（23 年 8 月）の事後アンケートには、学生に力をつける教育実践について、大きく 2 系統の意見あるいは課題感が記された。1 つは、授業の内容や方法についての意見、もう 1 つは、学習姿勢や授業環境に関する意見であった。これを受けて、内容・方法を X 軸、姿勢・環境を Y 軸とし、XY 両面から教育の効果をあげる、すなわち学生に力をつける授業について論じ合うワークショップを企画した。
出席者　専任教員 33 名（出席率 82.5%）、事務職員 5 名
ワークショップ事後アンケートの結果
「成果があった・成果を役立てたい」という回答が 91.4%を占めた

平成23年度FDワークショップの成果

課　題　１．学生の学習能力に高低群が存在するクラスに対する授業設計
　　　　２．学生の授業態度を改善させる方法

グループ１　教育経験年数３年未満　看護学科３名・理学療法学科２名　計５名

課　題　１．学生の学習能力に高低群が存在するクラスに対する授業設計
　初期に職業イメージをつくらせる、動機づけをする
　　例）教員の経験したエピソードを講義で伝える･･･話術も大切
　　　　→イメージ化しやすい、あこがれ・目標をもつ（○○先生みたいになりたい‥）
　　　動画マルチメディアの活用
　　　教員の人間性（プラス面・マイナス面）　→職業イメージ
課　題　２．学生の授業態度を改善させる方法
　学生を大人として扱う（一度は注意する）
　　→臨床実習が社会性を学ぶ場となっている（介入が入る）。しかし、大学生であるので自律性を重んじることは大切

グループ２　教育経験年数3～10年　看護学科３名・理学療法学科３名　計６名

	課題１　学力	課題２　態度
講義	・レディネスの把握は難しい ・講義中の学生の様子を通して徐々に把握する	・学生の興味を引くような授業の内容 ・学生に関する事前情報の活用
演習	・グループワークの工夫 ・リーダーシップのとれる学生を見抜く ・グループの中にリーダーシップのとれる学生を配置する ・レディネスの低い群と高い群を混在させて学生の相互作用をはかる ・実習補助者の活用―教員１人につき学生40名が限界？　→　→	・若手の教員は経験のある教員がペアで指導し、学生に関わることにより、レディネスが低い学生に気づくことを学ぶことができる。 →　→
実習	←　←	・成績と必ずしもリンクしない ・実習の場面でレディネスの高低差が顕著 ←　←

〈レディネスの低い学生に気づくには？〉
・学生に表現してもらうこと・教員と学生との関わり・事前情報の活用

グループ３　教育経験年数 3〜10 年　看護学科３名・理学療法学科３名　計６名

課　題　１．学生の学習能力に高低群が存在するクラスに対する授業設計
- 小テストを毎回授業中に行い、グラフ化することで、学力の低い学生に対して、期末テスト前に自分の学力を認識させる
- 小テストを復習に使い、学力底上げをはかる
- 毎回ミニッツペーパー（講義終了 5 分前に記入）を使用し、講義に対する質問を受けている。学力の高低により質問内容が異なるため、授業理解度を確認できる
- グループワーク等で学生間が協力し合える環境をつくる。しかし、学力の低い学生が学力の高い学生を頼る傾向があり、学力の高い学生は負担を感じている。そのため、レポートや成果は個人レベルで評価する。
- 課題の考察について、コピペルナー（ネット上からのコピペ防止）

課　題　２．学生の授業態度を改善させる方法
- 教員が学生の名前を覚えることで、教員を選んで授業妨害をしている学生の危機感を煽る
- 最初の授業でのオリエンテーションを大切にして、学生が授業を受けるための目標設定をする
- 学生の危機感を煽るような話をして、授業態度を改善させる。また、煽るだけでなく将来へのイメージングをすることで目標意識を高く持たせる
-

グループ４　教育経験年数 10 年以上　看護学科５名・理学療法学科３名　計８名

課　題　１．学生の学習能力に高低群が存在するクラスに対する授業設計
- できない人に照準を合わせて、繰り返しを多用する
- 大事なことのレジュメ・マニュアル・レポート課題化
- ミニテストの活用
- グループの力、グループ作業の利用
- 具体的な事象・当事者性・教員の経験の活用
- ミニッツペーパー等の活用による個別対応・双方向性の確保

課　題　２．学生の授業態度を改善させる方法
- クラスサイズ、クラス編成等授業環境・条件に効果が左右される
- 板書の活用
- おしゃべりの原因をつきとめてそれに対処する

（集中力が途切れる、授業がわからない等）

グループ５　教育経験年数 10 年以上　看護学科５名・理学療法学科３名　計８名

課　題　１．学生の学習能力に高低群が存在するクラスに対する授業設計
・高学年になってくると内容が専門的になり、興味が沸くため高低差がなくなる
・1 年次には比較的高低差が目立つため学習に工夫が必要
例）ミニテスト、パワーポイントを使った穴埋め、肉筆レポート、プリントによるポイントの提示、演習課題へのグループダイナミックスの活用

課　題　２．学生の授業態度を改善させる方法
・授業参加への心得を最初に示す
・授業の時に覚醒させておくことが大切
・教員が熱意をもって語ることで学生も感応してくる

３．学生による授業アンケート

毎年度前期及び後期末に、全開講授業科目を対象に、掲示、配布資料による事前説明の上、選択肢回答設問 16 問（授業科目について 5 問、担当教員について 8 問、あなた自身について 3 問。各「そう思う」～「そう思わない」等 4 から 5 択）と自由記述欄から成る「学生による授業アンケート」を実施している。回収率は、23 年度前期開講科目平均 93%、後期及び通年開講科目 78%であった。回答は教務課で集計の上、FD 部会で分析・検討し、FD 部会から、以下の内容から成る各授業科目 A3 用紙 1 枚の「授業アンケート集計・分析結果シート」によって、まず、以下 1.2.を各教員に還元した。各教員は、A.B に記入の上、FD 部会に同シートを再提出する。FD 部会では、回収した A.B の記述を、FD 課題の抽出という観点で分析・協議し、FD 活動に還元した。また、分析・協議の中でその必要があると判断された事項については、教務委員会に報告した。回答の集計結果、教員からのフィードバックは、蓄積とさらなる活用のため、データベース化を進めている。

併せて、科目ごとの「授業アンケート集計・分析結果シート」の内容を A4 用紙 1 枚にまとめて PDF ファイル化し、大学ホームページ本 FD サイトに公開した。

表 5-4-2　「授業アンケート集計・分析結果シート」の内容

1.　選択肢回答設問の回答結果
　　各設問の、回答分布（表）、平均得点（表）、平均得点の経年変化（図）
　　3 設問群ごとの平均得点（表）、学科別科目群別平均得点との比較（図）
2.　自由記述回答結果

・・

A.　昨年度の「学生による授業アンケート」の結果等を参考にして講義で工夫したこと、留意したこと
B.　科目担当者としてのコメントや今後の対応等

４．教員間の授業相互参観（ピアレビュー）の導入準備

教育活動評価の一環として授業のピアレビューを制度として導入していくことが23年12月教授会で、また、24年3月教授会で以下の方針で制度の具体化を進めることが承認された。24年度からの実施に向けて実施方法の具体的立案に取り組んだ。

教員間の授業相互参観（ピアレビュー）導入に関する方針

ｲ. 客員非常勤を含む全教員が、単位認定科目について、開講期中1回参観を受ける

ﾛ. 専任教員は、前後期各2回、両学科の、他の単位認定者の授業を参観する

ﾊ.ピアレビュー実施に係る事項は、FD部会で立案の上、運営を教務課に委託する

ﾆ. 参観者用の評価用紙と、授業実施者用の応答用紙を作成する。

５．FDネットワーク"つばさ"加盟校としての活動

山形大学高等教育研究センターが主催する「FDネットワーク"つばさ"」の加盟校として、同ネットワークの第7回・第8回FD協議会、研修会に参加して研鑽と交流をはかり、また、22年度のFD活動報告を提出した。

６．教育改善・大学人としての資質向上に向けたその他の検討

本学のFD活動をより質の高いものへと成熟させていくために、教育評価に関する以下事項について検討を開始した。

・実習科目についての「学生による授業アンケート」の作成

・教育の多面的評価

主に満足度の測定である「学生による授業アンケート」と併用すべき、授業の達成度や、学生ニーズへの応答性の評価手法の開発・導入

・形成的評価（中間評価）の導入